

三鷹市美術ギャラリーをご利用のお客様へ

三鷹市美術ギャラリーは、2024年3月2日(土)から3月31日(日)まで、改修工事のため、
太宰治展示室を含む全展示室を休室いたします。

4月13日(土)の展示室開室までの間、催し物は開催しておりません。

財団公演チケットのご購入やお引き換え、施設利用のお申し込みなど、窓口業務のみ10:00～19:00で受け付けます。

皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承の程、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先：三鷹市美術ギャラリー(0422-79-0033)

開催日	催し物名・観覧時間	入場方法	主催者(問い合わせ先)
4月 16(火)～ 21(日)	第39回 JRP武蔵野・三鷹支部写真展 観覧時間:10:00～18:00(初日は13:00から、最終日は17:00まで)	無料	JRP武蔵野・三鷹支部 0422(48)0161 中村
23(火)～ 28(日)	第45回 三鷹書人の会書展 観覧時間:10:00～18:00(初日は14:00から、最終日は16:30まで)	無料	三鷹書人の会 0422(52)0278 野水

4月13日(土)から

企画展示

太宰文学と美術のまじわり

太宰治展示室
三鷹の此の小い家

太宰文学には美術をモチーフにした作品が多くあります。近年映画化されるなど、特に若年層から支持を得ている「人間失格」の主人公 大庭葉蔵は生計のために漫画を描き、作中にはモディリアーニ、セザンヌ、ゴッホなど西洋絵画の巨匠らの名前も見受けられます。

今や「語りの手」と謳われ、日本近代文学の代表的な作家となった太宰ですが、学生生活を送った青森時代には画業も選択肢の一つとして挙げられたほどの腕前でした。周囲には画家志望の友人も多く、その交際範囲は上京してからも広がりました。

阿部合成に単行本の装幀を依頼することもあれば、友人の画家 久富邦夫をモデルに「ある画家の母」(のち「リイズ」)、天性の画才に恵まれながら自信喪失の果ての女性の末路を描いた「水仙」など、美術を題材にした作品も紡いでいます。

本展では、小館(こだて)善四郎、根市良三、阿部合成、鯨崎(ひれさき)潤、久富邦夫らとの交流をとおして、美術に造詣を深めた太宰の多彩な芸術性に迫ります。自ら絵筆を執った油絵や画家による装幀の初版本はもちろん、一見平面的に捉えられがちな活字の世界に、美術という視覚を交えて立体的に創出された太宰治の世界をご覧ください。

会期：令和6年4月13日(土)～8月18日(日)

休館日：4月15、22、30日 5月1、7～9、13、20、23～31日 6月3、10、17、24日
7月1、8～12、16、22、29日 8月5、13日

観覧時間：10時～18時 ※観覧無料



この催し物案内は、2024年2月19日にとりまとめたものです。内容、期間、時間、入場方法等は変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

各催し物の詳細については、主催者までお問い合わせください。